



ロータリー：変化をもたらす

RI 会長

イアン H.S. ライズリー

# 新潟南ロータリークラブ

- 例会場 / 新潟市中央区川端町 6 丁目 53 ホテルオークラ新潟 TEL 025-224-6111
- 事務所 / 新潟市中央区西堀前通 6-905 第二西堀ビル 5 F  
TEL 025-222-5050 FAX 025-222-5051 e-mail niigataminamirc@wine.ocn.ne.jp
- 例会日 / 水曜日 12 時 30 分
- 会長 / 富山 修一 幹事 / 田村 淑文 会報・雑誌委員長 / 西脇 郁夫

## WEEKLY REPORT

No.2828 2017.10.18 wed

ロータリーソング「それこそロータリー」「ROTARY」

2) 今週の花 「オンシジューム」花言葉：清楚・可憐

1) 富山 修一 会長挨拶



10月14～15日にロイヤル胎内パークホテルで「第17回ライラ研修」があり、当クラブから本間長市地区ローターアクト委員長、櫻井英喜・小川博己青少年奉仕正副委員長そして南ローターアクトの皆さんが参加されました。皆さんありがとうございました。

今日は年忌のお話です。丁度一年前、母が亡くなり、皆さんには大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。良い機会でしたので「年忌」とは何か?を調べてみました。これは祥月命日に行われる仏事で、定められた年に行う年忌法要とか追善供養とも言います。意外と中国の儒教の影響が大きく、亡者が初七日、四十九日、一周忌、三周忌などの合計10の日に冥界の10の王の審判を受けると言う「十王信仰」に基づいています。七回忌以降は日本独自のものです、十三とか二十五は干支が一回りするのになんだ年忌です。

本山（浄土真宗とか真言宗）では五十回忌以降は50年毎に行います。民間では三十三回忌以降を「弔い上げ」「間切り」と称して死者が「神様」になる、あるいは「ご先祖様の仲間入り」をしたと称して一つの区切りとしていました。現代では三回忌までは親戚を呼び、以降は身内だけで行うのが多いそうです。

なお神道では一年祭、三年祭、五年祭で以後、五年毎に行いますが、全て満年齢で数えるのが仏教とは違うところでしょう。

3) 委員会報告

①ロータリー財団委員会（服部 正 委員長）



藤田 普君	\$ 100	(\$ 2,662)
五十嵐大吾君	\$ 20 ポリオ \$ 10	(\$ 3,630)
中川 宏紀君	\$ 50	(\$ 360)

②米山記念奨学委員会（五十嵐 大吾 委員長）



五十嵐大吾君	¥2,000	(¥141,000)
宮尾 益佳君	¥5,000	(¥120,000)
中川 宏紀君	¥5,000	(¥40,000)
富山 修一君	¥2,000	(¥207,000)

4) ニコニコボックス紹介（西潟 健徳 委員長）

2件



角南邦彦君…細田さん、お元気になられうれしいです。いつも夜例会にはお酒のご出席をいただきありがとうございます。

堀川雅弘君…「上越新幹線・新潟空港乗り入れの決起集会」が、準備期間が「衆議院選挙」と重なったために、開催が延期となりました。開催が決まりましたらお知らせ致します。お詫びして、にこにこします。

## 5) その他報告

### ・角南 邦彦 親睦委員会委員長



12月20日にクリスマスパーティー例会が開催されます。会場はハーバーパーク アヴェニュー プレストンです。ぜひ奥様お子様同伴で参加をお願いします。

### ・野球同好会 西脇 郁夫 幹事

10月21日(土)7:50よりハードオフエコスタジアムで7ロータリー野球大会が開催されます。東ロータリークラブとの対戦です。応援をよろしくお願いします。(3塁側です)

### ・台湾友好クラブ担当片桐 豊 君



台中南屯ロータリークラブ、11月4日に総勢44名で来日されますが、4日の歓迎会、5日の合同例会の出欠席についてまだ未回答の方は早急に回答をお願いします。なお、11月は第1・2週の昼の例会は休会となり、台中南屯歓迎会がメーキャップ扱いとなります。

## 6) 幹事報告 (田村 淑文 幹事)

- ・11/4の台中南屯来日時使用する手帳の校正をお願いします。
- ・10/19に一メで会長指名委員会を開催しますので関係者の方は出席をお願いします。

会員数	算定対象者	出席者	出席率
106	103	71	68.93

## 《卓話》

地方局発の映画「夢は牛のお医者さん」

TeNY(株)テレビ新潟放送網 チーフ報道・制作ディレクター、監督 時田 美昭 氏

紹介者：堀江 英年 君



普段は報道部のデスク担当です。この映画の制作はそもそも30年前から始まります。私が報道記者になった年で、山の小さな小学校で牛を飼っているという新潟日報さんの小さな記事を読み、興味を持ち、取材に行きました。以来26年間、ずっと密着で取材し続けました。

それをテレビで放映するたびに「勇気がもたらした」「元気が出た」「ぜひ子供たちに見せたい」と反響がありました。その時に東日本大震災が発生、被災地の子供たちに元気を持ってもらえないだろうか、夢を見ることの大切さを伝えられないだろうかと考えた結果、映画にすればよいと思ひ映画化に踏み切りました。

完成後は巡回映画を無料で開催する団体に依頼し、全国50数カ所のミニシアターで上映できました。いろんな映画の賞もいただき、去年の夏にはアメリカの「サンディエゴ国際子ども映画祭」で最優秀ドキュメンタリー賞をいただきました。上映開始から3年半が経ちましたが、地方局が作った映画でも日本一、世界一を頂いたりできるんだと、やって良かったなと感じています。

地方の放送局だからこそ、20年以上続けて取材が出来ました。身近に題材があって通い易く、根気強く長く取材が出来たというのは、地方の小さい放送局ならではの振り

返って感じます。

自主上映では、小学校、中学校そして高校からの上映依頼があり、先生方は、「子供たちに、夢って叶うんだよということを伝えて欲しい、そして勉強って何のためにするんだろーということこの映画から感じて欲しい」とおっしゃっています。そしてもう一つ「職業ってなんだろう」「働くってなんだろう」ということを考えてくれたらと思います。

この映画は大成功をおさめるとい形になりましたが、皆さんのおかげですし、これからも頑張っていきたいなと思います。ありがとうございました。

